〔科目名〕 経営倫理学	〔単位数〕 2 単位	〔科目区分〕 専門科目 基幹科目				
〔担当者〕 藤沼 司	〔オフィス・アワー〕 時間: オフィス・アワーは授業の開始時に提示 場所: 603研究室	〔授業の方法〕 講 義				
〔科目の概要〕 20 世紀以降の現代社会が「組織社会」「マネジメントの世紀」と呼ばれるようになって久しい。その組織社会たる現代社会を支える企業や行政機関、その他の組織体が引き起こす事件・事故は、私たちが生きる現代社会を根底から揺るがすことにもなりかねません。 組織体は、様々な環境との相互作用の中で活動しています。経営倫理学は、組織体を取り巻く多様な環境（人間環境、社会環境、自然環境）との関わりを問い、またそのことを踏まえてどのように組織体をマネジメントするかを問う学問であると言えます。その意味で本講義では、みなさんとともに「組織体と多様な環境との関係のあり方」を問いたいと思います。そのことが現代社会や組織を、ひいてはくいま・ここに生きる私たちのあり方・生き方を、問うことにもなります。 可能な限り授業スケジュール通りに進めるよう努力しますが、受講生の状況によっては変更が生じうることを、あらかじめ理解しておいてください。						
〔「授業科目群」・他の科目との関連付け〕・〔なぜ、学ぶ必要があるか・学んだことが、何に結びつか〕 組織体は、様々な環境との相互作用の中で活動しています。経営倫理学は、組織体と多様な環境（人間環境、社会環境、自然環境）との関わりを問う学問であると言えます。その意味で言えば、教養科目群を学ぶことを通じて、多様な環境（人間環境、社会環境、自然環境）についての理解を深めることが期待されます。 また基本的に、「多様な環境の中での組織体のマネジメントのあり方」を問うという意味で、マネジメント論や組織論、経営戦略論、環境経営論などと密接な関連を有しています。						
〔科目の到達目標〕 本講義の到達目標は、みなさん自身が「組織体と多様な環境との関係のあり方」を問い、意思決定し、実践するための土台づくりです。そのため、<u>さまざまな観点からの問い方を学び、その特徴を理解することを重視したい</u>と思います。						
〔ディプロマ・ポリシー (DP) との関係〕						
学部				学科		
DP1 ○	DP2 ○	DP3 ○	DP4 ○	DP1 ○	DP2 ○	DP3
〔学生の「授業評価」に基づくコメント・改善・工夫〕 「授業評価」(授業アンケート)に関して、「問題点は特になし」であったり、自由記載回答記入者がいないので、特に述べることはありません。引き続き、わかりやすい授業となるよう改善を試みます。わかりやすく、受講生が議論に参加しやすくなるように、努めます。						
〔教科書〕 特になし						
〔指定図書〕 必要なときに提示						
〔参考書〕 岩田 浩『経営倫理とプラグマティズム—ジョン・デューイの思想に依拠した序説的考察—』文眞堂。 遠田雄志『組織を変える“常識”—適応モデルで診断する—』中公新書。 小笠原英司・藤沼司編著『原子力発電企業と事業経営—東日本大震災と福島原発事故から学ぶ—』文眞堂。 奥村 宏『会社はなぜ事件を繰り返すのか—検証・戦後会社史—』NTT出版。						

奥山俊宏・村山治・横山蔵利『ルポ 内部告発—なぜ組織は間違うのか—』朝日新書。
 釘原直樹『集団はなぜ残酷にまた慈悲深くなるのか—理不尽な服従と自発的人助けの心理学—』中公新書。
 高浦康有・藤野真也編著『理論とケースで学ぶ企業倫理入門』白桃書房。
 武田晴人『事件から読みとく日本企業史』有斐閣。
 谷口照三『組織倫理論の可能性—経営の解釈・実践枠組み探求への新たな地平—』大学教育出版。
 G.テッド『サイロ・エフェクト—高度専門化社会の罠—』文藝春秋。
 中原 翔『組織不正はいつも正しい—ソーシャル・アバランチを防ぐには—』光文社新書。
 樋口晴彦『組織行動の「まずい!!」学—どうして失敗が繰り返されるのか—』祥伝社新書。
 樋口晴彦『「まずい!!」学—組織はこうしてウソをつく—』祥伝社新書。
 間嶋 崇『組織不祥事—組織文化論による分析—』文眞堂。
 宮坂純一『道徳的主体としての現代企業—なぜに、企業不祥事が繰り返されるのか—』晃洋書房。
 村田晴夫『文明と経営』文眞堂。
 S.B.ローゼンソール=R.A.ブックホルツ『経営倫理学の新構想』文眞堂。
 K・ワイク=K・サトクリフ『想定外のマネジメント—高信頼性組織とは何か—(第3版)』文眞堂。

〔前提科目〕 なし

〔学修の課題、評価の方法〕(テスト、レポート等)

評価方法は以下の諸点を考慮し、総合的に判断します。グレードポイントは学生便覧通り。

- ・ 期末試験
- ・ 講義内レポート
- ・ 講義内発言点
- ・ グループ・ワーク

〔教員としてこの授業に取り組む姿勢と学生への要望〕

本講義では、「組織体と多様な環境との関係のあり方」を問うていきたいと思います。

その手がかりとして本講義では、「組織体はなぜ不祥事・事件・事故を起こすのか」という問いに対する考察を重視したいと思います。そのために、受講生のみなさんには、「組織体の不祥事・事件・事故」をグループ単位で具体的に調べてもらい、講義内で発表してもらうグループ・ワークを考えています。そのことを通じて、組織に対するおよび組織における人間行動に対する理解を深めることを目指したいと思います。こうした問題に関心のある学生の積極的な「参加」を希望します。

〔実務経歴〕 該当なし

授 業 ス ケ ジ ュ ー ル

第 1 回	テーマ(何を学ぶか): ガイダンス:経営倫理学の歴史的背景 内 容: 経営倫理学を生み出した背景 教科書・指定図書 教員作成のレジюме・資料を適宜配布
第 2 回	テーマ(何を学ぶか): 応用倫理学としての経営倫理学 ① 内 容: 徳理論・義務論 教科書・指定図書 教員作成のレジюме・資料を適宜配布
第 3 回	テーマ(何を学ぶか): 応用倫理学としての経営倫理学 ② 内 容: 功利主義・正義論 教科書・指定図書 教員作成のレジюме・資料を適宜配布

第4回	テーマ(何を学ぶか): 応用倫理学としての経営倫理学 ③ 内 容: 共同体主義・行動倫理 教科書・指定図書 教員作成のレジュメ・資料を適宜配布
第5回	テーマ(何を学ぶか): 「応用倫理学としての経営倫理学」の再考 ① 内 容: これまでの振り返り／事例紹介 教科書・指定図書 教員作成のレジュメ・資料を適宜配布
第6回	テーマ(何を学ぶか): 「応用倫理学としての経営倫理学」の再考 ② 内 容: 道徳的多元主義の検討 教科書・指定図書 教員作成のレジュメ・資料を適宜配布
第7回	テーマ(何を学ぶか): 道徳的制度としての組織体 ① 内 容: モラルの起源としての人間協働の意味 教科書・指定図書 教員作成のレジュメ・資料を適宜配布
第8回	テーマ(何を学ぶか): 道徳的制度としての組織体 ② 内 容: 「モラル主体」としての組織体観 教科書・指定図書 教員作成のレジュメ・資料を適宜配布
第9回	テーマ(何を学ぶか): 「よい組織体」の構築 ① 内 容: 経営倫理の制度化とコーポレート・ガバナンス 教科書・指定図書 教員作成のレジュメ・資料を適宜配布
第10回	テーマ(何を学ぶか): 「よい組織体」の構築 ② 内 容: ステークホルダー志向の経営と「よい組織体」を評価する投資の仕組み 教科書・指定図書 教員作成のレジュメ・資料を適宜配布
第11回	テーマ(何を学ぶか): 組織体を取り巻く多様な環境 ① 内 容: 人間環境・社会環境・自然環境との関連で 教科書・指定図書 教員作成のレジュメ・資料を適宜配布
第12回	テーマ(何を学ぶか): 組織体を取り巻く多様な環境 ② 内 容: 人間環境・社会環境・自然環境との関連で 教科書・指定図書 教員作成のレジュメ・資料を適宜配布
第13回	テーマ(何を学ぶか): 具体的な事例をめぐって ① グループ・ワーク 内 容: 事例の検討と討議 教科書・指定図書 教員作成のレジュメ・資料を適宜配布
第14回	テーマ(何を学ぶか): 具体的な事例をめぐって ② グループ・ワーク 内 容: 事例の検討と討議 教科書・指定図書 教員作成のレジュメ・資料を適宜配布
第15回	テーマ(何を学ぶか): 具体的な事例をめぐって ③ グループ・ワーク 内 容: 事例の検討と討議 教科書・指定図書 教員作成のレジュメ・資料を適宜配布
試験	期末試験(筆記試験)